

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E142H015		環境生物学 (Environmental Biology)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 永野 昌博・北西 滋 E-mail masanagano@oita-u.ac.jp / kitanishi@oita-u.ac.jp 内線 7008 / 7576											
授業の概要	環境と生物の関係, 人間活動と環境の関係を体系的に学習し, それを基盤とした生物多様性や生態系サービスなど人間と自然が共存していくための理論について習得する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 環境と生物の関係を理解する																	
目標2 多様な生態系の仕組みを理解する																	
目標3 生態系と生物多様性の関係を理解する																	
目標4 生物多様性(環境)と人類との関係を理解する。																	
目標5 生物多様性(環境)を持続的に保全・利用する社会を考える。																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 環境について-地球環境と地域環境-																	
2 生物の定義1:細胞膜																	
3 生物の定義2:ミトコンドリア																	
4 生物の定義3:遺伝子																	
5 生態系について																	
6 森の生態系																	
7 土の生態系																	
8 海の生態系																	
9 海洋の生態系																	
10 生物種の多様性																	
11 遺伝子の多様性																	
12 生態系の多様性																	
13 生態系サービスについて																	
14 生物多様性の危機要因																	
15 まとめ																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	・クリッカーなどのICTにより双方向の授業を行う。 ・学生に意見を発表・意見交換してもらおう。 ・生物多様性の保全に向けた持続可能な社会について思考を深めてもらう。				工夫	その他の	・随時, 実物の生物や標本等を持ち込み, 体験による学習の深化を図る。									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	新聞等で環境や生物に関する記事に読み, 地域や地球の環境問題の情勢を理解しておく(2h)。															
	事後学修	身近な環境における変化に気を配るよう心掛ける(2h)。															
教科書	教科書を指定しない。 資料を配布する。																
参考書	「生物多様性概論」著者_宮下直ほか, 出版年2012年, 出版社_朝倉書店 「生態学入門(第2版)」編著_日本生態学会, 出版年2017年, 出版社_東京化学同人																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	受講態度	10%															
	レポート	10%															
	期末試験	80%															
期末試験は, 資料, ノート等の持ち込み禁止																	
注意事項	授業中のスマートフォン等の電子機器の使用禁止																
備考																	
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	博物館学芸員，大分県境影響評価技術審査会委員